



## Vol.5 ハウス管理編

[2015.04.30]

ハウスに並べ終えられた苗は、その後、職員による温度管理と水管理のもと、硬化苗になるまで大切に育てられます。

4月も下旬に差し掛かると、外気温が暖かになり、特に太陽が出ている時などは、ハウス内の温度が急上昇します。水不足に必要以上の高温が重なると、場合によっては**苗焼け**を起こしてしまい、育たなくなってしまうこともあるので注意が必要です。

日中の温度が**20℃**から**25℃**に保たれるよう、ハウスの換気を欠かさずに行います。約30℃を超えると危険ですが、同じく低温も稲の成長を妨げる原因になります。



生育中の苗の様子

ハウスの側面を開けて換気中



一斉に水を与えます



水のやり方もまた、バランスが重要です。足りないと苗の葉がすぼまってしまうますが、やり過ぎると苗が徒長し、倒伏の原因となってしまいます。基本的には1日に2回、水を与えますが、天候や気温を見て時間帯を変えるなど、工夫を施します。